

関東学生審判講習会【報告書】

参加者：山本耕大

(1) 概要

大会名	DAITO CUP 2019	
日程	2019年3月25日・26日	
会場	大東文化大学 東松山キャンパス	
講師	25日	26日
	安西 郷史 氏(埼玉県S級審判員)	岩井 遥河 氏(東京都S級審判員)
	北島 寛臣 氏(埼玉県S級審判員)	大河原 則人 氏(東京都S級審判員)
	清水 幹治 氏(神奈川県S級審判員)	北島 寛臣 氏(埼玉県S級審判員)
	眞榮喜 工 氏(埼玉県S級審判員)	佐藤 誠 氏(千葉県S級審判員)
参加者	門脇 堯洋(北海道)/藤本 瑠斗(北海道)/石井 唯人(北海道)/猪股 祐介(宮城)	
	村上 翔(関東)/星野 駿(関東)/後藤 良太(関東)/小宮 颯太(関東)	
	山本 渚(関東女子)/山越 優美(関東女子)/関口 沙良(関東女子)	
	渡邊 希有(北信越)/占部 拓人(東海)/上濱 穂高(東海)/深谷 佳弘(東海)	
	津坂 誠(東海)/杉野 晃久(関西)/深野 末 慧(関西)/北山 拓海(関西)	
	新居田 はなの(関西)/瀧野 雄陽(関西)/松田 大輝(九州)/山本 耕大(九州)	

(2) 座学講義

25日 (安西氏)	<p>《メカニクス》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2POと3POは別ものとする。2POは判定のためにメカニクスを崩すこともある(判定\geqメカニクス)が、3POは正しいメカニクスが正しい判定に繋がる(判定=メカニクス)。 ・3POのベーシックなメカニクスこそ重要で、全ての審判員が共通の理解をすることが必要であり、プレゲームカンファレンスでもベーシックなメカニクスについての確認を行う ・アクションが起こる前にローテーションを行う。 ・Lがローテーションの途中で逆サイドにボールが渡っても、Lはローテーションを完成(フリップ)してから、再度ローテーションを行う。
26日 (大河原氏)	<p>《メカニクス》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローテーション中はトライアングルを小さく保つ。スイッチサイド中がクルーとして一番弱いということを確認する。 ・ポジショニングには必ず理由付けを行う。 ・CサイドコーナーのショットはCが顔だけを動かして3or2を確認する。 ・Cはカールプレイへの準備をしておく。 ・トランディション中の吹き抜け(TとLの間にあるボールマンとディフェンスの第一線のエリア)はCが確認しておく。

(3) 実技講義

日程	2019年3月25日	
対戦カード	育英vs大東文化大	
講師	安西 郷史 氏	
担当審判	CC (村上翔 関東)	U2 (石井唯人 北海道)
ミーティング内容	PGCでは講義の内容に基づいて、ベーシックなメカニクスとCサイドエントリーとバックコートに2組以上オフェンスとディフェンスが残っている場合の協力とプレコーリングガイドライン通りに判定していくことを確認した。ゲームでは、メカニクスに大きな崩れはなかったものの、テンポセッティングが上手くできなかったという反省が得られた。プレコーリングガイドラインに沿って判定すること、ショットに行けたからファウルとしないのではなくRSBQが崩れたらファウルとして取り上げることがテンポセッティングに繋がるということも学んだ。また、EOQにおいてタイマーとショットクロックを確認し、タイムアップやバイオレーションの成立を頭に入れておく。	

日程	2019年3月26日	
対戦カード	白樺学園vs東京農大三	
講師	佐藤 誠 氏	
担当審判	U1 (山越優美 関東女子)	U2 (瀧野雄陽 関西)
ミーティング内容	PGCでは、前日の講義で学んだメカニクスを実践すること、テンポセッティングを意識することを確認した。ゲームでは、テンポセッティングを意識しすぎたこともありファーストコールがRSBQにあまり影響のない笛となってしまった。ゲームの基準を示す笛だということ意識するという反省を得た。また、メカニクスの課題も多く上がり、Lの位置取りがベースラインから離れすぎていること、ローテーションのタイミングが悪いという気づきを得て、Lでクローズダウンした際に、ひと呼吸置いてコートを確認したからローテーションを行うというアドバイスを頂いた。さらに、パスのボールが空中にある間にポジションアジャストすることでクイックショットにも対応することができることも学んだ。また、	

